福岡県米麦大豆生産改善速報 第４号

令　和　５年９月７日
福　　岡　　県
福岡県米麦品質改善協会

水稲の生育概況と成熟期予測

１．気象経過［太宰府アメダス］

	７月 26 日～８月 31 日（37 日間）				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本　年	29.9	35.1	25.3	251	250
前年差(比)	+0.2	+1.0	+0.1	117%	81%
平年差(比)	+1.5	+2.6	+1.1	119%	93%

注）平年は 1991～2020 年の太宰府アメダスの平均値。

２．農林業総合試験場における生育概況

７月 26 日～８月 31 日の平均気温は平年より 1.5℃高く、日照時間は平年より 19%多く、降水量は平年より７%少なかった。出穂期は平年並～２日早かった。全穂数は「夢つくし」で平年より 18%少なく、農産部の「元気つくし」、「ヒノヒカリ」で平年より 10%程度少なく、筑後分場の「元気つくし」、「ヒノヒカリ」で平年より８～16%多く、「実りつくし」で平年より８%多かった。今後の気温が平年並で経過した場合、成熟期は平年より１～４日早いと予想される。

３．農林業総合試験場における水稲の出穂期、穂数と予想成熟期

調査場所	移植期	品種	年次	穂肥施用時 カラースケール	穂肥施用時 葉緑素計	主稈葉数 (L)	全穂数 (本/㎡)	出穂期 (月日)	予想成熟期 (月日)
農産部	6/9	夢つくし	本　年	3.0	35.3	13.1	320	8.8	9.10
			前年比（差）	-0.5	-3.6	-0.2	74	+2	+1
			平年比（差）	-0.8	-4.1	±0	82	±0	-1
	6/21	元気つくし	本　年	3.4	36.0	13.3	317	8.19	9.24
			前年比（差）	+0.2	+1.4	-0.2	93	+2	+2
			平年比（差）	-0.3	-0.5	-0.1	89	+1	-2
		ヒノヒカリ	本　年	3.2	33.5	13.9	332	8.26	10.4
			前年比（差）	+0.2	+2.6	-0.5	93	+1	±0
			平年比（差）	-0.3	-1.7	+0.1	90	±0	-2
筑後分場	6/21	元気つくし	本　年	3.6	39.4	13.3	484	8.16	9.22
			前年比（差）	-0.3	+1.4	-0.8	113	±0	-2
			平年比（差）	±0	+3.0	-0.3	116	-2	-4
		ヒノヒカリ	本　年	3.6	39.7	14.0	437	8.25	10.4
			前年比（差）	-0.3	+3.8	-0.8	110	+1	+2
			平年比（差）	+0.2	+6.1	+0.1	108	±0	-1
		実りつくし	本　年	3.4	34.9	15.6	400	8.28	10.10
			前年比（差）	-0.2	+2.0	+0.3	114	+1	±0
			前７年比（差）	+0.3	+3.8	+0.9	108	-2	-4

注）①平年値は過去10か年の平均値。
②カラースケールは群落葉色値、SPAD値は葉緑素計（SPAD-502）による上位展開第2葉の測定値。
③予想成熟期は9月1日以降の気温が平年並で経過した場合の予測値。
④この値は暫定値で、今後変更することがある。

４．今後の対策（水稲）

（１）病害虫防除

病害虫は発生状況に応じて適切に防除を行う。特に台風通過後は、倒伏したほ場を中心に病害虫が発生する恐れがあるため、ほ場での発生状況の把握に努め、適期に防除する。「病害虫・雑草防除の手引き」を参考にして行う。

（２）水管理

出穂期以降は落水時期まで間断かん水を行う。落水時期は収穫前７～10 日頃を目安とする。早期落水は、登熟障害により収量、品質が低下するため行わない。

台風襲来等で強風が予想される場合は、深水で稲体を保護し、脱水による青枯れや白未熟粒の発生を防止する。

（３）適期収穫

収穫時期は出穂後の積算気温を参考に、黄褐色籾比率や籾水分を確認して決定する。

５．農林業総合試験場農産部における大豆の開花期

大豆の開花期は、フクユタカでは７月 11 日播種で８月 20 日、７月 25 日播種で８月 30 日、ちくしB5 号では７月 11 日播種で８月 21 日、７月 25 日播種で８月 31 日、と平年並となった。

播種期	フクユタカ		ちくしB5 号	
	開花期	平年比	開花期	平年比
７月 11 日	8/20	±0	8/21	±0
７月 25 日	8/30	±0	8/31	±0

注）平年値はフクユタカでは平成24年からの10か年、ちくしB5号は平成28年からの６か年の平均
（令和２年は播種期が遅く平均値からは除去）

６．今後の対策（大豆）

（１）病害虫防除

ハスモンヨトウは、各地に設置されているフェロモントラップの誘殺数とほ場での白変葉の発生状況を総合的に判断し、適期防除を実施する。カメムシ類と紫斑病は、開花後 25～30 日頃に防除を実施する。

葉焼病の発生に留意し、発生状況に応じ防除を実施する。

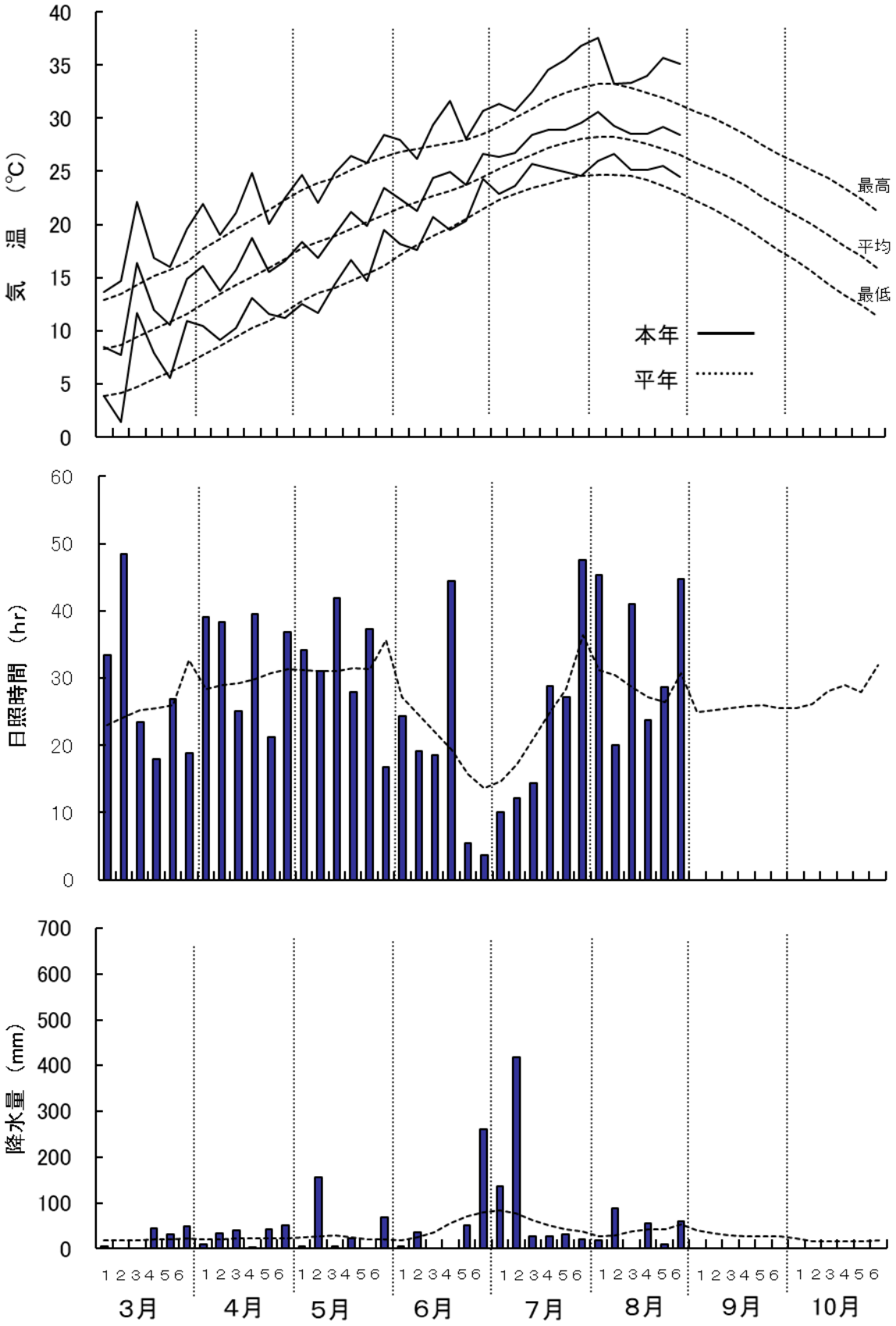
（２）排水対策・乾燥防止対策

降雨後に停滞水を出来るだけ早くほ場外に排出するため、畦溝や排水溝の整備を行う。

降雨によってほ場内に停滞水がある場合は、本暗きょの栓をあけて排水し、排水完了後は再度、乾燥防止のために栓をしめる。

（３）雑草対策

大豆の生育量が少ないほ場や中耕・培土をできていないほ場は雑草の発生が多くなるので、防除が必要な場合は早めに除草剤を散布する。



2023(令和5年)夏作期間の気象（太宰府アメダス）